

同表に見るように、2001 年と 90 年を比較すると、増大しているのは、内蒙古、遼寧、吉林、黒竜江、江西、広西、寧夏の 7 省である。全部の省で、農地面積が減少している訳ではないことの例証ともなっている。

また、最大は黒竜江の 60.1 ㌦、最小は広東の 5.0 ㌦で、両者の格差は 12 倍となっている。

4. 農業労働力

中国の農業労働力は端的に言って過剰である。中国では、現在も、そして、今後もかなりの期間、農業労働力の問題は、不足を懸念することではなく、如何にして現有の農業労働力を農業から排除することである。

(1) 農業労働力の問題の意味

中国の農業労働力の問題は、その不足にあるのではなく、過剰であることにあるが、それは、農業労働力の過剰が農民所得の低迷、伸び悩みの大きな原因の一つになっているからである。

1) 農民所得の現状

まず、農民所得の現状を見ておこう。一人当たり農民所得（農民一人当たり年間純収入）は表 4－1 のように推移している。表 4－1 には比較のために都市住民の一人当たり年間可処分所得額も掲げてある。

表 4－1 農民 1 人当たり年間純収入と同都市住民の可処分所得の推移（単位：元）

	1978 年	1985 年	1987 年	1992 年	1994 年	1998 年	1999 年	2000 年	2001 年
農民 (A)	133.6 (100)	397.6 (298)	462.6 (346)	784.0 (587)	1221.0 (914)	2162.0 (1617)	2210.3 (1654)	2253.4 (1686)	2366.4 (1771)
都市 (B)	343.4 (100)	739.1 (215)	1002.2 (292)	2026.6 (590)	3496.2 (1018)	5425.1 (1580)	5854.0 (1705)	6280.0 (1829)	6859.6 (1998)
B/A	2.57	1.86	2.17	2.58	2.86	2.51	2.65	2.79	2.90

出所：『中国統計年鑑』各年版。

農民所得の問題点は、表 4－1 に見るように、それ自身の伸び悩みと都市住民との格差の拡大である。都市住民との格差の拡大について、国家統計局局長の朱之鑫は次のように指摘している。即ち、「2000 年の全国のジニ係数は 0.417 であり、既に国際的な警戒線とされている 0.4 を超えてしまっている」。また、「都市住民間の収入格差も大きく、全体の 1 割を占める最高収入層の 2000 年の可処分所得は 1 万 3110 元となっているが、同じく 1 割を占める最低収入層との格差は 1 万 0658 元となっている（注：最低収入層の可処分所得＝1 万 3110 元－1 万 0658 元＝2452 元）」（出所：2002 年 10 月 5 日中国語ヤフーによる「香港文匯報」の転載）。

都市住民との格差は、農民所得もそれなりに増大を続けていけば、ある程度は問題の噴出を抑えることはできるが、農民所得が減少すると一挙に問題が噴出することが懸念される。全国ベースでは農民所得は僅かではあるが増大を続けているものの、各省レベルでは既に農民所得が前年より減少している事態が生じている。その状況は次のようである（注：各省ごとの具体的数字は別表4-1を参照）。

1997年 チベットの1
 1998年 黒竜江、江西の2
 1999年 山西、遼寧、吉林、黒竜江、甘肅、新疆の6
 2000年 遼寧、吉林、黒竜江、広西、陝西、寧夏の6
 2001年 内蒙古の1

1999年、2000年と2年連続して全国31の省、市、自治区の内の6つが前年より減少した。特に食糧主産地の東北3省のダメージが著しかった。このことは共産党中央、中国政府に大きな衝撃を与えた。

農民所得の問題には、都市住民との格差の問題のほかに、農民間の地域格差の問題も大きな問題となっている。

農民の一人当たり年間純収入が最高の上海市と最低のチベット自治区との間には、2001年では次のような格差が存在している。

上海：チベット＝5870.87元：1404.01元＝4.18：1.00

（注：第30位は貴州省で1411.73元である）

なお、2001年の農民一人当たり年間純収入のジニ係数は0.3223であり、前年より0.0313縮小したとされている（『中国農村住戸調査年鑑2002』）。

2) 農民所得の内容

農民所得の内容も大きく変化している。表4-2に見るように農業所得はむしろ減少しており、2000年にはついに50%を割り込むと言う歴史的な転換を示した。諧謔的に言えば、半分は農民でなくなったのである。

表4-2 農民の純収入における農業所得のシェアの推移（単位：元）

	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年
農業所得A	1265.4	1236.3	1180.7	1125.3	1165.2
純収入額B	2090.1	2162.0	2210.3	2253.4	2366.4
A/B	60.5%	57.2%	53.4%	49.9%	49.2%

出所：『中国統計年鑑』各年版から計算。

3) 農民所得の低迷の原因

このような農民所得の構成をもたらす所以は、中国全体の産業構造と就業構造にあるので、それらをまとめたのが表4-3である。表4-3から看取されることは、第一次産業のGDPのシェアと全産業従事者に占めるシェアとの著しいアンバランスである。2001

年の例でいえば、GDPのシェアは15.2%に過ぎないのに、従事者のシェアは50.0%も占めている如くである。小さなパイを膨大な農民が分け合っている状況である。

表4-3 第1次産業（農業）の国民経済に占めるシェアの変化

	第1次産業の国内総生産額に占めるシェア			第1次産業従事者のシェア		
	第一次産業	第二次産業	第三次産業	第一次産業	第二次産業	第三次産業
78年	28.1%	48.2%	23.7%	70.5%	17.4%	12.1%
97年	19.1%	50.0%	30.9%	49.9%	23.7%	26.4%
99年	17.6%	49.4%	33.0%	50.1%	23.0%	26.9%
00年	15.9%	50.9%	33.2%	50.0%	22.5%	27.5%
01年	15.2%	51.1%	33.6%	50.0%	22.3%	27.7%

出所：『中国統計年鑑2002』。

（2）農業労働力の現状

中国の統計では、農業労働力の問題は農村労働力の問題の一分野として考えられているようである。問題の発想としては、先ず農村労働力があり、そして、それらの農村労働力が農業と工業を代表とする非農業産業にどのように就業されているかが考えられるという思考方法である。

1）農村労働力の状況

ア．全国の状況

全国の農村労働力は表4-4、図4-1のように推移している。農村人口は現在も増大している状況であるので、農村労働力が増大しているのは当然の事象である。しかしながら、2000年の数値は異常である。この年だけ1000万人以上の増大となっているからである。その理由は不詳である。

表4-4 中国の農村労働力数の推移（単位：万人）

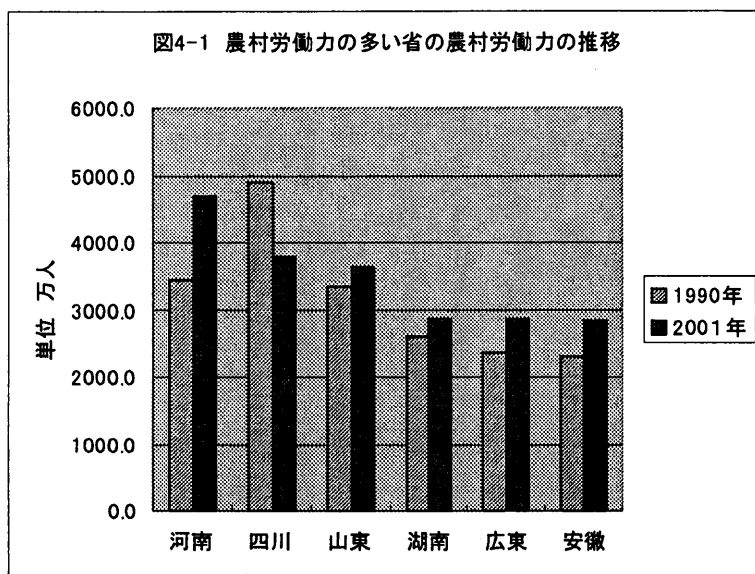
年次	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001
従事者数	45041.8	45288.0	45961.7	46432.3	46896.5	47962.1	48228.9
1995=100	100.0	100.5	102.0	103.1	104.1	106.5	107.1

出所：『中国統計年鑑』各年版。

イ．各省の状況

各省別の農村労働力数は別表4-2のようである。別表4-2に見るように、2001年と90年を比較すると、省間には相当な差異があることが分かる。全国平均では、この間に14.8%の増大となっているが、逆に北京、天津、上海、江蘇、湖北は減少している。四川は減少した結果となっているが、これは重慶が分離されたためであり、両者を合計すると

増大しているので、減少グループからは除外する。減少グループの中で、北京、天津、上海は減少が当然と考えられ、また、江蘇は郷鎮企業等の発展が著しいので減少しているのも頷けるものの、湖北が減少しているのは腑に落ちないが、理由は不詳である。他方、異常な伸びを示しているのは黒竜江である。これも理由は不詳である。



2) 農業就業者数の状況

中国の統計では農業就業者だけの統計は公表されておらず、農業、林業、畜産、漁業の従事者の合計数字が公表されているだけである。このため、農業就業者の問題を考える場合も、これらの合計された数値を用いざるを得ない。

ア. 全国の状況

全国の農林畜漁業従事者（就業者）数は表4-5のようである。

表4-5 中国の農林畜漁業従事者数の推移（単位：万人）

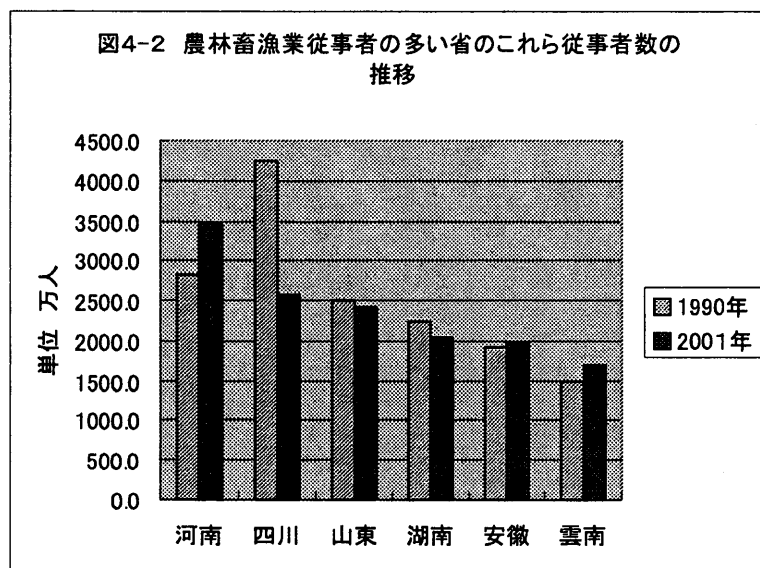
年次	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001
従事者数	32334.5	32260.4	32434.9	32626.4	32911.8	32797.5	32451.0
増減率	100.0	99.8	100.3	100.9	101.8	101.4	100.4

出所：『中国統計年鑑』各年版。

表4-5に見るように、全国の農林畜漁業従事者数はほとんど変わっていない。最近では、99年をピークにして若干減少の傾向を見せているが、それでも2001年の従事者数は95年を上回っている状況である。

イ. 省別の状況

各省別の農林畜漁業従事者数は別表4-3、図4-2のようである。



2001年と99年を比較してみると、増大しているのが15省、減少しているのが15省（重慶は四川に含めて計算している）となっている。丁度半分が増大し、半分が減少している結果となっている。経済発展に伴って農林畜産漁業従事者数が減少するのは当然という前提に立って、それぞれのグループの省を検討してみよう。まず、減少グループである。このグループのうち、経済が発展、または比較的発展しているので減少は当然と考えられるのは、北京、天津、河北、江蘇、浙江、福建、山東、広東の8省である。他方、経済発展が遅れているが減少しているのは、吉林、江西、湖北、湖南、広西、四川、陝西の7省である。この7省のうち、特に減少率の大きいのが、湖北（▲21.7%）、四川（▲18.1%）、江西（▲15.2%）の3省である。経済発展が遅れていても過剰な従事者が減少することは喜ぶべきことであるので、これら3省の減少は喜ぶべきことではあるが、問題はそれが実態を反映しているかどうかである。つまり、統計的な整合性が保たれているか否かである。次は増大グループである。このグループのうち、経済発展が遅れているので増大は当然と考えられるのは、山西、内蒙古、黒竜江、安徽、河南、貴州、雲南、チベット、甘肅、青海、寧夏、新疆の12の省である。他方、経済が発展、または比較的発展しているのに増大しているのは、上海、遼寧、海南の3つの省である。これら3省のうち、その増大理由の説明が特に求められるのは上海である。考えられることは、新たなタイプの都市近郊型農業の確立、増大とその結果による新規就農の場の拡大であるが、確証は得ていない。

3) 農村労働力の就業状況

次に農林畜漁業従事者が農村労働力の就業構造の中でどのような状況になっているかを見よう。

ア. 全国の状況

全国の農村労働力の就業構造は表4-6のようである。

表4-6 農林畜漁業従事者の農村労働力占める割合（単位：万人）

	合計	農林畜漁業	工業	建築業	交通運輸等	商業飲食業	その他
1995 年	45041.8 (100)	32334.5 (71.8)	3970.7 (8.8)	2203.6 (4.9)	983.0 (2.2)	1170.4 (2.6)	4379.7 (9.7)
1996 年	45288.0 (100)	32260.4 (71.2)	4018.5 (8.9)	2304.3 (5.1)	1027.6 (2.7)	1261.5 (2.8)	4415.7 (9.6)
1997 年	45961.7 (100)	32434.9 (70.6)	4031.3 (8.8)	2372.7 (5.2)	1057.8 (2.3)	1381.5 (3.0)	4683.9 (10.2)
1998 年	46432.3 (100)	32626.4 (70.3)	3928.6 (8.5)	2453.5 (5.3)	1087.9 (2.3)	1461.9 (3.1)	4874.0 (10.5)
1999 年	46896.5 (100)	32911.8 (70.2)	3953.0 (8.4)	2531.9 (5.4)	1115.8 (2.4)	1584.6 (3.4)	4799.3 (10.2)
2000 年	47962.1 (100)	32797.5 (68.3)	4108.6 (8.6)	2691.7 (5.6)	1170.6 (2.4)	1751.8 (3.7)	5441.9 (11.3)
2001 年	48228.9 (100)	32451.0 (67.3)	4296.0 (8.9)	2797.4 (5.8)	1205.4 (2.5)	1864.5 (3.9)	5614.6 (11.6)

出所：『中国統計年鑑』各年版。

表4-6に見るように、農林畜漁業従事者の農村労働力に占めるシェアは着実に減少している。問題はその速度が鈍いことである。

イ. 各省の状況

各省別の農林畜漁業従事者の農村労働力に占めるシェアは別表4-4のようである。2001年と1990年を比較すると、そのシェアが増大しているのは上海だけである。また、このシェアが低いほど農林畜産漁業からの労働力移転が進んでいることであり、こうした視点からみると、経済発展が進んでいる省ほどそのシェアは小さくなっている。2001年の実績では、シェア順位の最下位は上海（32.6%）であり、次いで、北京（41.1%）、浙江（45.4%）、天津（47.9%）、江蘇（54.1%）と続くが、50%を切っているのは天津までである。

5. 森林資源及び植林の進展状況

（1）中国の生態環境の現状

最近、中国の生態環境が一段と悪化しているとする意見が喧伝されている。その具体例として提示されるのが、春の砂嵐（中国語では「沙塵暴」と呼ばれている）の来襲回数の増大とその程度の深刻化である。さらには、黄河の水が涸れ歩いて黄河を渡れる「断流」現象や長江（揚子江）の上流の森林破壊による汚濁化も良く引き合いに出される。これらの現象は言われるように確かに存在しており、否定はできない事実であるが、果たして喧伝されている程に中国の生態環境は本当に悪化が進んでいるのであろうか。

中国政府はこうした喧伝に対してあまりムキになって反論はしていないが、生態環境の